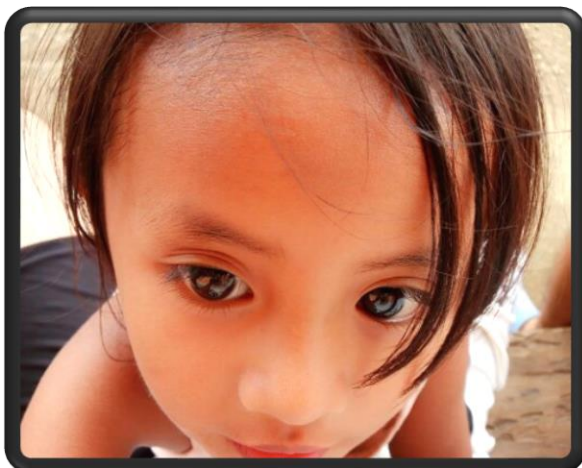


PHILIPPINE SURVEY CAMP

2016 9/5~9/26 AT TABANGO LEYTE

REPORTED BY FIWC-KYUSHU



目次

はじめに

1. FIWC とは
2. 重要人物紹介
3. 事前 MTG, 下見キャンプスケジュール
4. Survey (事前調査) について
5. 2017 年度本キャンプワーク内容
6. その他調査地
7. ワーク地決定経緯
8. Evaluation
9. Future Meeting
10. 生活状況
11. 係報告
12. 他己紹介
13. 感想
14. 新キャンパー募集について



はじめに

今回は6人で下見キャンプを行った。6人とも下見キャンプへの参加としては全員今回が初めてということもあり、不安や期待を抱えながら日本でミーティングを行った。分からないなりに過去のキャンプ資料に目を通したり、勉強をしていく中で、だんだんとキャンプに対する思いが強くなっていき、キャンプに対する思いや考え、やりたいことなどを議論し、共有していった。そして、今回は下見の段階ではキャンプテーマを決めず、「必要性」、「現実性」、「将来性」の3つの観点を基準にワーク地を決定することを決め、フィリピンへ発った。実際に現地調査をしていく中で、たくさん抱えた村人、村人たちの普段の生活、村人たちの正直な声に直面した。調査地それぞれに異なる大きな問題があつて、それで苦しむ村人たちがいて、私たちに何とかしてほしいと調査に快く応じて、話をしてくれる人々がいて。それでも私たちは現実的にどこか1つの場所を選ばなきゃいけない。たくさん悩まされたし、キャンパーたちも意見を交わす中で時には対立することもあった。そんな葛藤を乗り越えて、今回私たちは2017年の春に行うプロジェクトの決定を行ってきた。そして今回のプロジェクトは過去のフィリピンキャンプの中でも規模的にも予算的にもかなり大きなものになる。それができるのは今日まで10年以上フィリピンキャンプに携わってきた先輩キャンパーたちがFIWCとしてのフィリピンキャンプをしっかりと確立させ、下の代に引き継いできてくださったからだ。そんなたくさん抱えた村人の思いが詰まったフィリピンキャンプを今年もできることを嬉しく思うとともに、感謝をしたい。また、私たちだけでは今回の下見キャンプは行うことは到底できず、ロクロクさん、村の村長、役員、私たちにご飯や移動などあらゆる面で支えてくださった村人、また日本で見守り支えてくださったOB・OGのおかげだ。本当に感謝している。

またフィリピンキャンプはキャンパーの存在なしでは始まらない。いろいろ自分のやりたいことで悩んでいるかもしれない。知らないから不安かもしれない。しかし、そのあなたの輝く個性を私たちは必要としている。感性は人それぞれなので一概には言えないが、個人的には今回のフィリピンキャンプは間違いなくキャンパーと村人を強くつなぎ、たくさん笑顔を生み出すキャンプになると信じている。

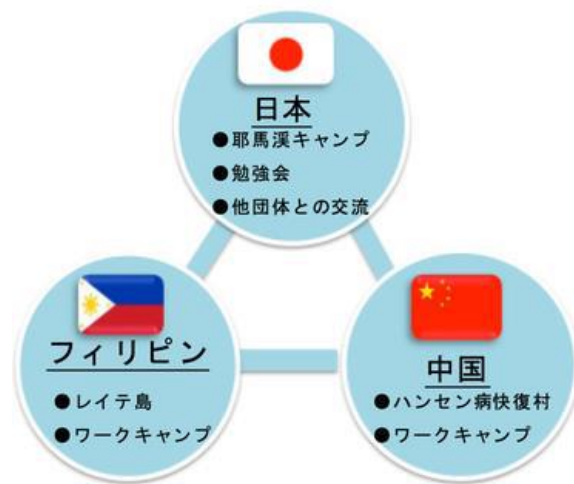
私たちと一緒にあなたの持つ色で「2016年度フィリピンキャンプ」

というキャンバスに「笑顔」という作品を作ってみませんか？

2016年度フィリピンキャンプリーダー 渡邊 諒

1. FIWC とは

Friends International Work Camp



FIWC 九州は九州(主に福岡)の大学生が主体となり、学生のみで国内外で国際協力を行っている学生 NGO 団体です。

<国際活動>

○中国キャンプ

ハンセン病快復村へ行き、村人のケアやインフラ整備を中国の大学生と行う。

○フィリピンキャンプ

フィリピンレイテ島の貧困村を訪れ、インフラ整備を村人と共に行いながら交流を図る。

○ネパールキャンプ

震災支援として、今年度発足。ウォーターシステムの整備を行う。

<国内活動>

○耶馬溪キャンプ

年3回大分県の耶馬溪で農業体験を行っている。

○FP (FIWC Party)

月1回程度、博多の「びおと一ぷ」で行っている勉強会&交流会。

○その他

学祭、まんぱ(Monthly Party)、総会、国内合宿 など

他にも自由な発想で自由な活動を行っている柔軟さが FIWC 九州の特徴です。また、FIWC は九州の他、関東、関西、東海、広島に支部があり、互いに情報交換を行いながらそれぞれが自立した活動を行っています。

☆キャンパーだけでなく、国内活動も一緒に参加してくれる大学生を募集中！！

2. 重要人物紹介

○ロクロクさん

1999年からFIWC 関東のキャンプに参加していて、FIWC 九州発足後は九州のお世話をしてくださっている現地エンジニア。プロジェクトのみでなく生活面などもキャンプ中は一緒に生活して支えてくださっています。今回のキャンプでは survey や evaluation で移動が多く疲れている中でも毎晩ミーティングでキャンパーに丁寧にワークの説明をしてくださいました。私たちがキャンプを楽しく、安全に行うことができるのは彼のおかげです！



○メイヤー（市長）

私たちがワークを行うタバngo市の市長さんです。前回のキャンプのときにメイヤーをしていた方の旦那さんです。とても忙しくてなかなか会うことができませんでしたが、一度挨拶に行ったときは私たちの活動をよく理解してくださり、私たちの活動を支援してくださいました。



○カピタン（村長）

前年度に引き続きキャンプ地となったブタソン I 村の村長さんです。彼女の家でキャンパーはご飯を食べたり、ラバ（洗濯）をしたりします。とても親切にしてくださり、お世話になっています。厳しいところもありますが、「ごはん、食べろ」と笑顔で呼びに来るみんな大好きお茶目なカピタンです。



○ムニシパル・エンジニア

今回のワークは規模が大きく、2か月間かかってしまうため前半の1か月を市に工事してもらいます。その工事を担当していただくエンジニアの方です。彼らの力がなければ橋の完成もないので、今回の下見キャンプでは何度も彼らとミーティングを繰り返しました。



○バランガイ・タノッド

今回のキャンプ中、数人で交代制で昼夜警備してくれました。また、Survey や Evaluation で別の村や集落に行くとき、マーケットへ買い物に行くときはいつもついてきて、私たちのお手伝いをしてくれました。いつも陽気に話しかけてくれるやさしいおじさんたちです。



○NorWeLeDePAI(North Western Leyte Development Parent's Association Inc.)

FIWC 九州と 2004 年から連携体制をとっている現地の NGO 団体です。この団体は、レイテ島北西部の村々で子供たちと両親が中心となってコミュニティーの発展を目指す活動を行っており、World Vision から資金援助を受けている。毎回パスポート等の管理をお願いしています。



3. 事前 MTG, 下見キャンプスケジュール

MTG スケジュール

6/2(木) 第一回 MTG@びおとーぷ
6/18(土) 第二回 MTG@びおとーぷ
6/27(月) 第三回 MTG@びおとーぷ
7/9(土) 第四回 MTG@びおとーぷ
7/18(月) 第五回 MTG@びおとーぷ
8/6(土) 第六回 MTG@びおとーぷ
8/30(火) 第七回 MTG@びおとーぷ
9/5(月)～9/26(月) 下見キャンプ
10/2(日) 事後 MTG@博多マック
10/22(土) キャンプ報告会



フライト日程

往路 9/5(月) 16:25 福岡空港発→17:55 仁川国際空港着
20:35 仁川国際空港発→23:55 セブ空港着

復路 9/26(月) 01:35 セブ空港発→07:00 仁川国際空港着
14:05 仁川国際空港発→15:25 福岡空港着



キャンプ日程

| Sun | Mon | Tue | Wed | Thu | Fri | Sat |
|---|---|---|--|---|---|--|
| | 9/5 出国（セブー泊） | 9/6★ ノルウェル→ BUTASON I 村到着 | 9/7★ Survey 開始 @ BUTSON I（プロパー） | 9/8★ Survey @BUTASON I（イラヤ） & Evaluation @マニゴン | 9/9★ Survey @ヒバコガン （プロパー& タータ） | 9/10 FIWC 関東訪 問@メリダ |
| 9/11★ Evaluation @パラナス、 パガバガン、 ターウェル、 ベリソン | 9/12 Survey @ BUTASON I（プロパー） & Evaluation @プロパー | 9/13★ 表敬訪問 （タバング） | 9/14★ Survey @ BUTASON II（プロパー、 ブコク） | 9/15★ Survey @ヒバコガン （プロパー） | 9/16★ Resurvey @BUTASON I（プロパー） 、カガワット と MTG | 9/17★ ワーク地決定 |
| 9/18★ 過去の橋のプ ロジェクト視 察@マタグオ ブ&GAM | 9/19★ ムニシパルエ ンジンアとの MTG @ タバ ンゴ | 9/20 Resurvey @BUTASON I（プロパー） | 9/21 | 9/22★ ムニシパルエ ンジンアとの MTG @ BUTASON I | 9/23★ ムニシパルエ ンジンアとの MTG @ タバ ンゴ | 9/24 Japanese Festival& Farewell Party |
| 9/25 BUTASON I 出発 | 9/26 帰国 | | | | | |

★：ロクロクさんが協力してくれた日

※カレンダー内の言葉について

ノルウェル (NorWeLeDePAI)：FIWC 九州と 2004 年から連携体制をとり、2007 年から正式に提携を結んでいる現地の NGO 団体。毎回パスポート・貴重品の管理をお願いしている。

表敬訪問：市役所を訪問し、市長や役員に挨拶をしたり、ワークの候補地、内容、予算についての話し合いを行う。

GAM(General Assembly Meeting)：通称ジェネアセ。村人を集めて FIWC、決定したワークについて説明し、理解を得るための集会。

カガワット：村役員を指す

4. Survey（事前調査）について

私たち FIWC 九州の Survey 方法を簡単に説明すると貧困村に住む村人の家を一軒一軒訪ね、予め用意していた質問+その場で気づいたことを尋ね、それを村人に答えてもらうといったものである。今回の下見キャンプでは 3 つの村(BUTASON-I, GIBACUNGAN, BUTASON-II)の中にある 5 つの集落で調査を行った。



※これから使用する語句の説明

- ・ PROPER（プロパー）・・・村の中心集落
- ・ citio(シティオ)・・・村に点在する集落
- ・ KALAHИ（カラヒ）・・・貧困村などにインフラ整備などの形を取り援助を行う社会福祉プロジェクト。資金源は主に国からであり、その規模はかなり大きい。※「7. その他の調査地」の項目で使用箇所あり

Survey の流れ

1. 滞在した村（BUTASON I）の村長や村役員とのミーティングで付近の貧困村や集落を紹介してもらう
2. ILAYA（BUTASON I の citio）で survey
3. GIBACUNGAN（の PROPER）で survey
4. CUTA(GIBACUNGAN の ciotio)で survey
5. BUTASON-I（の PROPER）で survey
6. Mayor を訪問、貧困村を紹介してもらう
7. BUTASON-II（の PROPER）で survey
8. GIBACUNGAN（の PROPER）で resurvey、ここでは 3 で回れなかった家庭を訪問した。

公平性

村の抱える問題を調査し、春に行うワークを決定するのが今回のキャンプの第一の目的である。そして当然春に行うワークは村の抱えている問題を解決するために行うのだが、この春のワークは実施する村の人々に対し最大限、我々の出来る限りで公平に利益をもたらすものであるように努めなくてはならない。それは、我々が問題を抱えている特定の個人や一部の家庭ではなく、多くの村人が共通の問題を抱えている集落や村を対象として活動をしているからだ。この公平性を保ったワークを行うためには“ワークを決める段階”、つまり“下見の段階”で配慮することが重要で、今回の下見キャンプも例年通りこの点には大変注意を払った。具体的には、「村人の中には英語を話せない人も多くいるので調査の際は、現地

の言語と英語の両方を話せる人に必ず同行の願いをし、英語を話せる村人からもそうでない村人からも平等に話を聞けるような環境にしたこと」、「出来る限り集落の全家庭を訪問し、全ての人の意見を聞くように努めたこと」、「ワーク地を決める際、公平性をワーク地決定のための重要要素とし、村人に対してどれだけ公平に利益が行き渡るかを熟考したこと」などが挙げられる。

政治的中立性

一見すると村人の皆が仲良さそうに見える村であっても、実際のところは内部で複雑な政治的対立が存在している場合が多く、今回調査を行った村の中にも政治的対立が存在する村があった。我々、FIWC九州は“政治的に中立な立場”を取っているため、FIの活動が政治的問題に踏み込んではいないか、村の権力者が、己が有利になるための道具としてFIの活動を利用してはいないかなどに注意した。この点をないがしろにしまうとFIの活動が原因で村内部の対立関係を深めてしまうことになったり、最悪の場合は争いへと発展することもある。従って、この点には最善の注意を払い、村の内情を考慮しながらワーク決定を行った。

GAM (General Assembly Meeting)

我々がワーク地として決定した村の村人に対し、この村でFIが春にワークを行うこと、また春に行うワークの内容について説明し、村人からの理解を得るための集会。今回、多くの村人達がこのGAMに足を運んでくれ、彼らに私たちFIWC九州を理解してもらうことができた。このFIへの“村人の理解”が春に行うワークへの“村人の協力”につながると確信している。



5. 2017 年度本キャンプワーク内容

ワーク概要

場所：フィリピン共和国レイテ島タバongo市ブタソン I 村プロパー

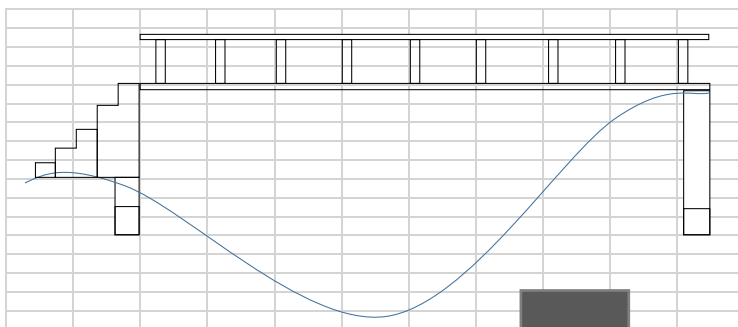
内容：橋の建設

期間：約 20 日間

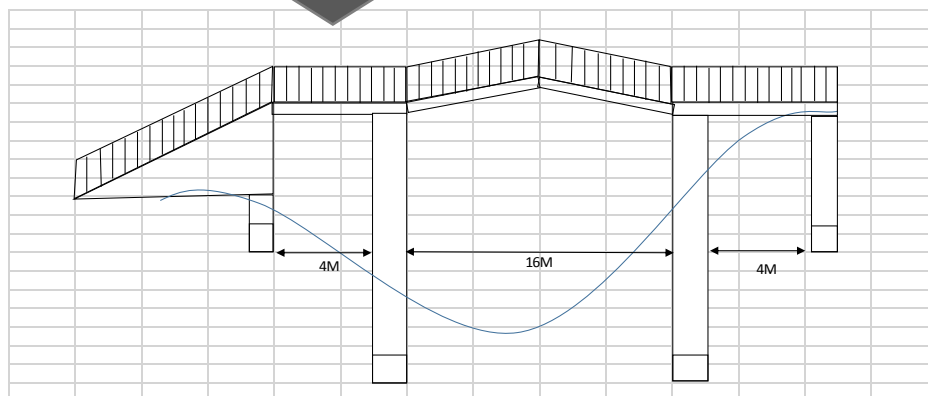
※ブタソン I 村：385 世帯/12citios（集落）

予算：406,723P（約 100 万円）

現在の橋（側面）



完成予想図（側面）



ワーク詳細

今回のワークでは、橋を建設する。この橋の両岸には、学校と教会があり村のほとんどの人が利用している。以前に市がコンクリート製の橋を架けたが台風により流され、前回本キャンプの際には兩岸の柱のみが残っている状態であった。その後、その上に仮設の竹の橋をかけたが、橋から落ちる子供も多くいると言う。実際に私たちの滞在中にも橋から靴を落としたり、杖をついたご老人が渡るのに困ったりしている姿が見受けられた。

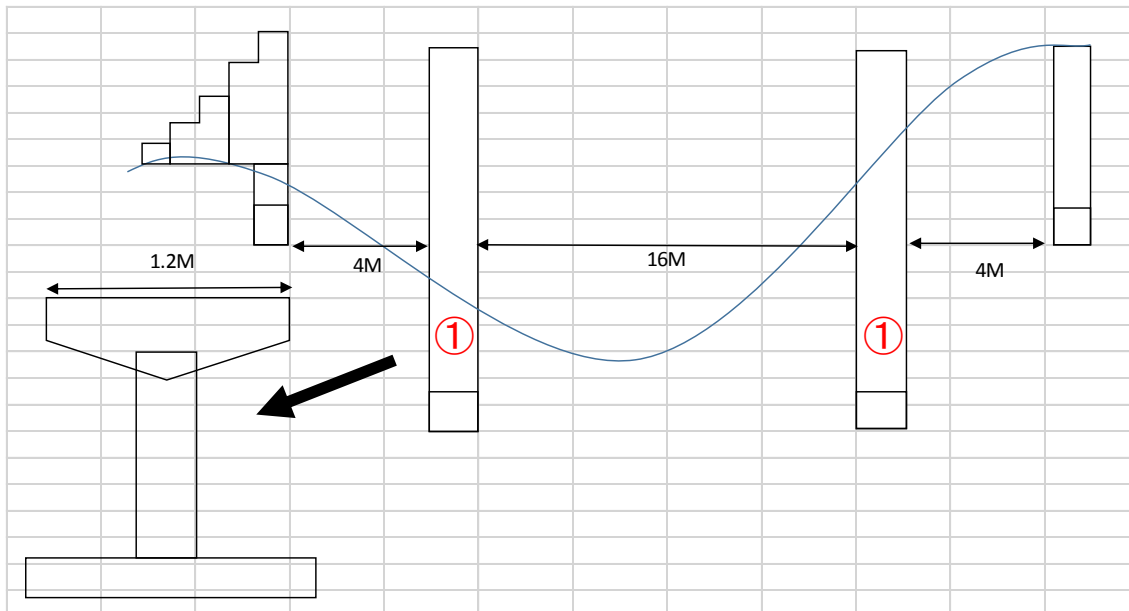
また、今回のワークは規模が大きく本キャンプの4週間では完成が難しいため、市および村と協力して3段階に分けてワークを行うことに決定した。以下段階別に詳細を記す。

Phase I 柱の建設 ～ムニシパル（市）～

工事時期：11月（18日間を予定）

予算：180,523P（約45万円）

Phase I 完成図（側面および柱の正面図）



〈予算内訳〉

| | | | | | |
|-------------|-------------|----------|----------|-----------|-----------|
| 資 | グラベル | 7,500 P | コランバー（小） | 13,200 P | |
| | サンド | 15,000 P | | コランバー（大） | 4,200 P |
| | セメント | 18,700 P | | 釘 | 1,500 P |
| 材 | スチルバー（20mm） | 24,000 P | 資材費合計 | | 110,683 P |
| | スチルバー（16mm） | 7,505 P | 人 | 監督者（1人） | 7,200 P |
| スチルバー（10mm） | 12,798 P | 技術者（4人） | | 25,200 P | |
| ワイヤー | 1,360 P | 労働者（8人） | | 37,440 P | |
| ベニヤ板 | 4,920 P | 人件費合計 | | 69,840 P | |
| | | 合計 | | 180,523 P | |

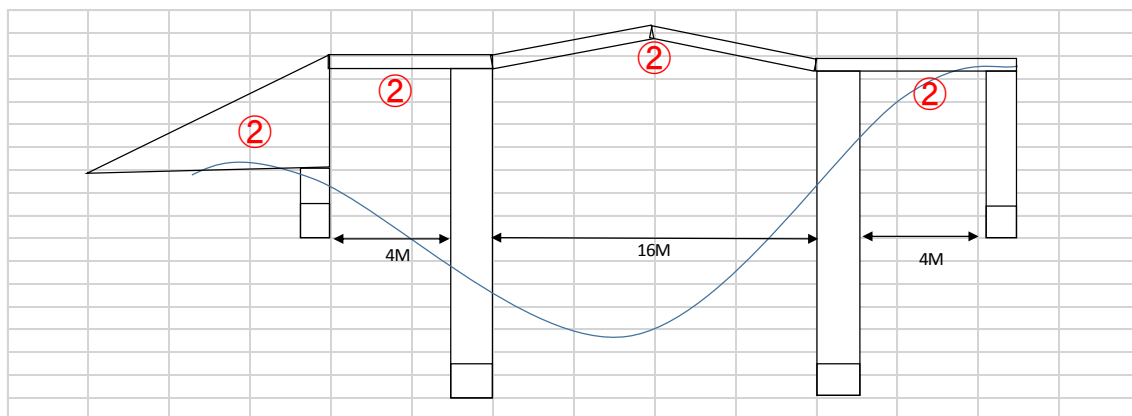
今ある2本の柱とは別にさらに2本の柱を立てる。この部分の工事は、費用面を含む進行をムニシパルに託すこととなった。私たちの滞在中に、ムニシパルのエンジニアさんと何度も打ち合わせをし、11月から工事を行うことに決まった。工事の遅れは、ワークの成功に大きな影響を及ぼすため、カピタン（村長）に、その進行状況を写真で逐一送っていただくことになった。また、現地エンジニアであるロクロクさんも作業の様子を確認しに村を訪れてくださる。

Phase II 床・スロープの建設 ~FIWC~

工事時期：2.3月

予算：169,800P（約45万円）

PhaseII 完成図（側面）



〈予算内訳〉

| | | | | | |
|---|--------------|----------|----|--------|------------------|
| 資 | グラベル | 19,600 P | そ | ココランバー | 12,000 P |
| | サンド | 14,000 P | | 釘 | 3,000 P |
| 材 | セメント | 36,000 P | の | ワイヤー | 1,000 P |
| | スチルバー (20mm) | 20,000 P | | 資材費合計 | 163,800 P |
| 費 | スチルバー (16mm) | 7,500 P | 他 | 資材運搬費 | 6,000 P |
| | スチルバー (12mm) | 12,600 P | | | |
| | スチルバー (10mm) | 19,500 P | | | |
| | ベニヤ板 | 9,100 P | | その他合計 | 6,000 P |
| | | | 合計 | | 169,300 P |

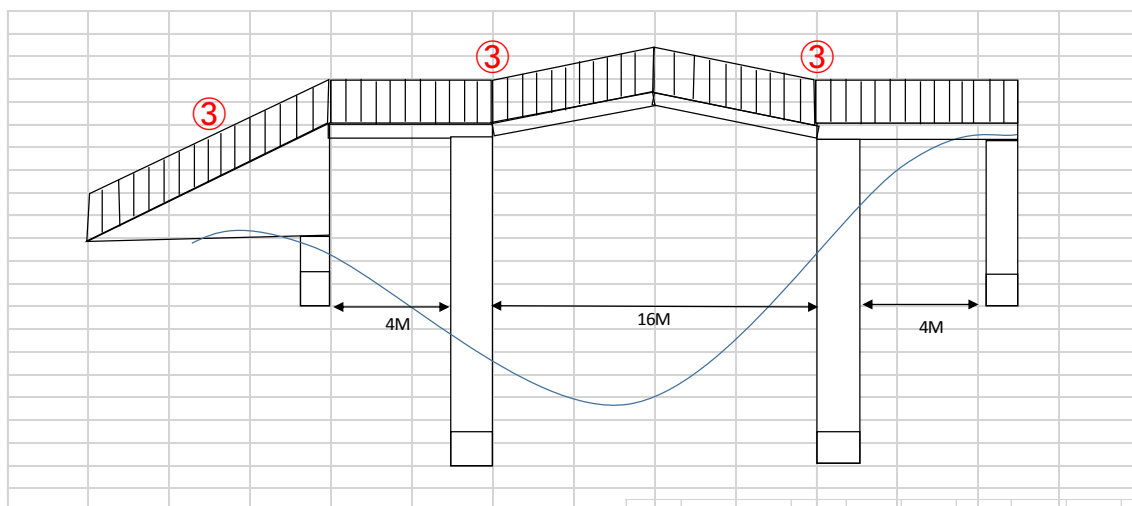
ここでは橋の床およびスロープをつくる。今まで階段であった部分をスロープにし、道幅を1.2Mにすることによりハバル（バイク）の通行を可能にする。また、橋の強度を高めるため、中心部を盛り上げることで負担を分散させる。

Phase III 手すりの建設 ～BRGY (村)～

工事時期：2.3月

予算：56,400P (約15万円)

Phase III 完成図 (側面)



〈予算内訳〉

| | | | | |
|--------|--------------|----------|---------------|-----|
| 資 材 | パイプ (小) | 18,200 P | | |
| | パイプ (大) | 15,400 P | | |
| | 溶接棒 | 1,000 P | | |
| 費 | サンド | 8,400 P | 資材費合計 56,400P | |
| | セメント | 7,500 P | そ の 他 | |
| | スチルバー (10mm) | 3,900 P | | |
| | 中空ブロック | 2,000 P | | |
| | | | その他合計 | 0 P |
| | | 合計 | 56,400P | |

ここでは橋に手すりを付けるワークを行う。手すりを付けることで転落を防ぐ。また、この手すりはパイプを用いる予定である。ここでの費用は村から予算を組んでもらうことになった。

6. その他調査地

ここではワーク決定には至らなかったが、今回調査をし、ワーク候補として挙げた場所について紹介していきたい。

・イラヤ（BUTASON I 村の citio の一つ）

| | |
|----------|--|
| 世帯数 | 15世帯 |
| 抱えている問題点 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 飲用水が無く、川の水を飲んでいるため衛生面に問題 ・ 天候により川の水は使用できないほどに汚れる ・ 衛生的な水がある水源は集落から険しい山道を約2km進んだ場所にある ・ ブタソンIプロパーからイラヤまでの道中に橋があるのだが、木の簡単な橋で、劣化が進んでおり通行に危険を伴う |
| 想定されるワーク | <ul style="list-style-type: none"> ・ ウォーターシステムの整備、橋の建設 |
| メリット | <ul style="list-style-type: none"> ・ この集落は深い山の中に位置しており、他団体からの支援の可能性は低く、抱えている問題も日常生活に直結するもので必要性が非常に高い |
| デメリット | <ul style="list-style-type: none"> ・ 利益の幅が極端に狭い ・ 橋のワークもウォーターシステムのワークも事業規模が大きく、技術的・予算的にも困難 ・ 滞在場所が村から非常に遠い |

<見解>

村の貧困状態、生活環境を考慮すると、ここの村人を助けてあげたいとの思いはメンバー全員持っていたが、上記のメリットとデメリットを参考に議論した結果、主としてデメリットの「技術的・予算的にも困難、利益の幅が狭い」という点からワーク地決定は見送った。

※ プロパーからイラヤへ向かう途中の橋



・ブタソン I プロパー

| | |
|----------|--|
| 世帯数 | 1 1 3 世帯 |
| 抱えている問題点 | <ul style="list-style-type: none"> ・水道設備自体は存在するが、時々水が出なくなる ・この集落は地理的に広く、同じ集落内でも集落の中心地とその周縁では、水の入手方法や入手の困難さに大きな違いがある |
| 想定されるワーク | <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーターシステムの改善 |
| メリット | <ul style="list-style-type: none"> ・利益の幅が広い |
| デメリット | <ul style="list-style-type: none"> ・集落が広いため、公平性を保つには数カ所で一度にワークを行う必要がある ・集落が広いため FI が最大限努めたとしても、村人間で不平等がでる可能性は否定できない ・ウォーターシステム自体は存在するので他の候補地よりも必要性が低い |

<見解>

村人間で不平等がでる可能性が否定できないこと、ウォーターシステム自体は存在するので他の候補地よりも必要性が低いこと、またこの集落には橋の問題（次回のワーク）もあり、こちらの方が村人間で問題になっていること等からワーク地決定を見送った。

・ヒバコガンプロパー

| | |
|----------|---|
| 世帯数 | 未確認 |
| 抱えている問題点 | <ul style="list-style-type: none"> ・この集落は川に隣接しており、大雨や嵐の際に川が氾濫し家屋が浸水する ・川の曲線部分に学校が位置しており、洪水の度にその川岸が削られ、およそ十年後には学校が立っている場所まで川幅が広がるとみられている |
| 想定されるワーク | ・フラッドコントロール（治水工事） |
| メリット | <ul style="list-style-type: none"> ・村の中心集落であり、また他の村の子供も通っている学校もあり利益の幅が広い ・浸水は全村人共通の一番大きな問題であり、必要性が高い ・学校の一室に宿泊でき、滞在に困らない ・工事の作業は容易 |
| デメリット | <ul style="list-style-type: none"> ・部分的なワークは十分に可能であるが、洪水の被害を完全に抑えることは資金的にも時間的にも不可能 ・仮に今回部分的にここのワークに着手した場合、来年以降もここのワークをすることを強く村人に求められ、次回以降の下見キャンパーがここでのワークに縛られる可能性がある ・部分的なワークでは村人の間で不平等がでる ・フラッドコントロールのワークにカラヒがおきており、FI よりもカラヒの方が多くの予算を投入できること、他の援助があるためFI がここのワークを選択する必要性は高くない |

<見解>

ワークの規模が大きすぎるためFI では部分的なワークしかできず、それでは村人間に大きな不平等がでること、またカラヒがおきておりFI 以外の援助があることを考慮しここのワークは見送った。

・クータ（ヒバコガンの citio の一つ）

| | |
|----------|--|
| 世帯数 | 80世帯 |
| 抱えている問題点 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウォータータンクは設置されており、水自体はあるのだが、パイプの太さ等の関係上、集落の必要水量をカバーできるほどの水量がない ・各家庭が1日に得られる水の量は約コンテナ2つつ分 ・水源は2キロ先にあり、村人の中にはハバル(バイク)で水源の水を取りに行く人もいる |

| | |
|----------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 飲用水は別途ミネラルウォーターを買う人もいる |
| 想定されるワーク | <ul style="list-style-type: none"> ・ ウォーターシステムの改善 |
| メリット | <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎となる水道設備自体は整っているため、ワーク自体は簡単 ・ 利益の幅が広い |
| デメリット | <ul style="list-style-type: none"> ・ BUTASON I プロパーと同様、水が全くないわけではなく、他の候補地に比べ必要性が低い ・ この集落には滞在場所がないため別の場所での滞在となるが、滞在地とワーク地の距離が遠く、通うのが大変困難 |

<見解>

大きなデメリットとしては、「水が全くないわけではなく、他の候補地に比べ必要性が低い」という点があるが、これは他の村と比べた際のこと、この村だけでみた場合村人のほとんどがこのワークを求めている、必要性も決して低いわけではなかった。またその他のデメリットも目立ったものはなく、キャンパーの中にはここでのワークをしたいと考える者もいた。しかし今回決定したワーク地（橋）と比較検討した結果、今回は決定を見送ることとなった。

・ ブタソン II プロパー

| | |
|----------|--|
| 世帯数 | 28世帯 |
| 抱えている問題点 | <ul style="list-style-type: none"> ・ この集落は村の中心地であるが水が全く引かれてなく、水を手するためには集落から離れた場所にある水源まで取りに行かなければならない ・ 水源が離れているためバイクを持っている人にお金を払い、水を汲んできてもらっている村人も多い ・ 現在利用されている水源は村より高さの低い場所にあり、また村より高い位置にもう1つ水源があるがそこは約5キロ離れている ・ 過去にカラヒがウォーターシステムの工事を行ったが、完成して間もなく台風で損壊 |
| 想定されるワーク | <ul style="list-style-type: none"> ・ ウォーターシステム整備 |
| メリット | <ul style="list-style-type: none"> ・ 全く水道設備が整っておらず、日常生活で村人は大変な負担を強いられており、他団体からの支援がなく、ここでのワークは高い必要性がある |
| デメリット | <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在利用している水源は村より高さの低い位置にあり、低い位置から高い位置へ水を運ぶワークにはかなりのコストがかかり、さらに完成後にも壊れる可能性が高く、将来性もない |

| |
|--|
| ・ 今回の下見では高い位置にある水源は距離が非常に遠く、この水源でのワークの詳細を決めるための時間的余裕がない、また技術的にも困難と思われ、予算も大きくなることが予想される |
|--|

<見解>

水源地が遠く離れていたため、今回は時間の関係上この集落はしっかりと調査ができなかった。この集落は村の中心地であるにもかかわらず水道設備が全く整っておらず、またこの村の家々の様子からここが非常に貧困であると強く感じ、どうにかしてここでワークをしたいと考えるキャンパーもいたが、皆で議論をした結果、やはりあまりにも不確定要素が多すぎる、デメリットが大きすぎることからここをワーク地として決定することはできなかった。

※ ブタソンⅡ村の水源



7. ワーク地決定経緯

今回の下見では、3村5citiosでsurveyを行った。そして、話し合いにより前回の滞在地であるブタソンI村のプロパーで橋の建設のワークをすることが決定した。他の候補地同様にメリットおよびデメリットを以下に挙げ、決定の経緯に代えたいと思う。

メリット

- ・すべての citio の村人が利用することより、利益の幅が広い。
- ・橋をつくることにより、村人を現在さらされている危険から守ることが出来る。
- ・ただ橋を安全に渡れるようになるだけではなく、子供が学校に安全に通えるようになることで、教育活動に対する障害を除去したり、畑に行きやすくなることにより仕事をしやすくなったり、水・ガス不足の一部の地域の村人が水やガスを運びやすくなるといった、付随的な効果が見込まれる。
- ・多くの人々が利用するため、多くのバヤニハン（現地協力者）が見込める。
- ・ステイ場所においても問題がない。
- ・前回の本キャンプでは、プロパーに滞在したがワークは行っていないため、プロパーの人々にはステイの負担ばかりをかけてしまい、直接的に利益を感じてもらえなかったが、ワークを行うことで去年の分も含め、感謝を伝えることが出来る。

デメリット

- ・確実性に欠ける。
 - 1か月で完成させることは不可能であったため、ここが大きな論点となったが、ワーク決定前にムニシパルに話をしたところ、協力が得られたため3段階に分けてワークを行うことでこのデメリットの解決策とした。また、時間にルーズな現地人の人柄を考えると不安な部分もあったためワーク決定後のミーティングで11月から工事を始め、進行状況を写真で送ってもらうことにした。
- ・コストがかかる。
 - 大きなプロジェクトになるため、費用が高く昨年のようにFIWCのみの資金でワークを行うことは不可能であったが、昨年のワーク成功の成果もあり、今回は市および村と資金面においても協力し合うことになった。
- ・技術面の難しさ。
 - 大きなワークになるため、作業に実際に日本人が参加できるのか不安に感じる部分があったが、ロクロクさんとのミーティングで何度も作業工程を話し合い、村人および日本人が協力しあってワークを行うことが出来ると判断した。

【ワーク決定において起こった問題】

1. 土地所有者への配慮の欠如

今回ワークを行うにあたり、私達が滞在する場所から対岸へ橋を架けるわけであるが、その対岸の土地の所有者の方がGAM後にカピタンを訪ねてきた。ワーク決定前にこの方に橋の建設の話をしていなかったからである。結果としては、橋から一定の距離は公用のものであるため、ワークの実行には問題はなかったが、土地の所有者としては決定前に一言声をかけてほしかったということであった。ワークを行う以上は、関係しそうな土地の所有者への配慮も必要不可欠であると学んだ。

2. 政治面での対立

今回ワークを行うブタソン I のカガワット (村役人) の中に前カピタンであり唯一違う政党の方がいらっしゃった。ワーク決定にあたって、村人に知らせる前にワークへの賛否を確認するため、村役人を集めてのミーティングを行ったが、その方は訪れなかった。この方からの反対が予想されたため、カピタンやロクロクさんと話し合い、この方へはGAMにおいて村人の前でワーク決定を知らせることとなった。GAMでは、この方からいくつもの質問が挙がったが、その答えに納得していただけた。しかしながら、このようなやり方が本当に正解であったのかわわからない。私たちの活動が政治にも影響を与える可能性があることを切に感じた瞬間であった。

8. Evaluation

◎Evaluation とは？

前年度のワーク地を訪れ、前回行ったワークと日本人の滞在についてインタビューをし、事後評価を行うことである。前回のワーク地は6つに分かれていたため、空いた時間を利用して事後評価を行った。

【2016年 春ワーク】

〈概要〉

- ・ 場所：フィリピン共和国レイテ島タバゴ市ブタソン I 村
- ・ 内容：Improvement of water system
- ・ 期間：2/18~3/18(ワーク日 14 日間)

○プロパー

プロパーではワークは行っていないため日本人の滞在についての Evaluation を行った。

1. Did you enjoy our stay? Yes 30 / No 0

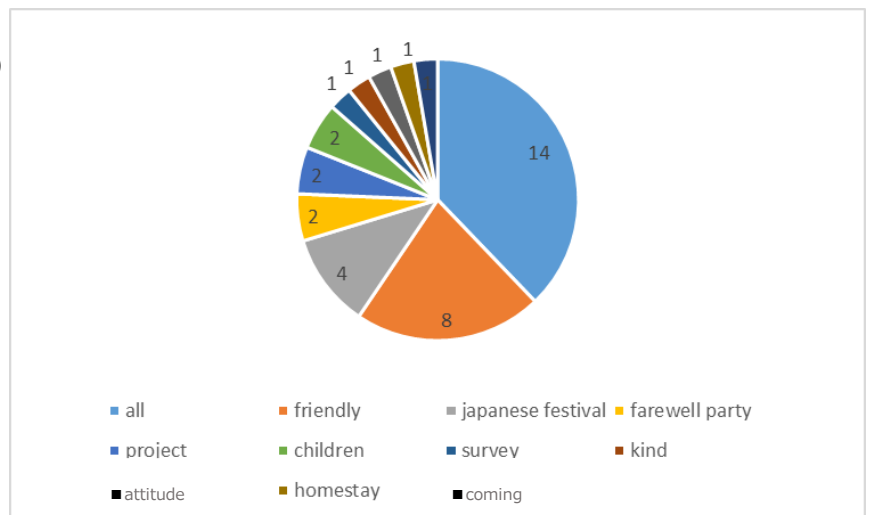
(日本人の滞在を楽しんでもらえましたか?)

2. Is there any FIWC members' behavior annoyed you? Yes 0 / No 30

(私達 FIWC の行動で迷惑だったことはありますか?)

3. What did you enjoy the best?

(何が一番楽しかったですか?)



4. What do you think about our homestay?

(ホームステイはどうでしたか?) Good 5 / No 0

5. Was it hard to cook for us?

(私達のためにご飯を作るのは大変でしたか?) Yes 0 / No 5

○パガバガン

〈ワーク詳細〉

水源のタンクをセメントで補強し頑丈にすると同時に、サリサリ・バスケットコート・教会の近くの3か所にパイプを引き、オープンタブとポンプを設置した。

[1] ワークについて

1. Do you use the water system? 教会 Yes 6 / No 0

(ウォーターシステムを使っていますか?) サリサリ Yes 7 / No 0

バスケットコート Yes 7 / No 0

2. Did any inconvenient happened because of the water system?

(ウォーターシステムに関して何か困ったことが起こりましたか?)

教会 Yes 4 / No 2 水が出なくなった。

ポンプの中のガスケット (圧力器) が壊れた。

サリサリ Yes 5 / No 2 水源の水がなくなることがある。

ポンプの中のガスケット (圧力器) が壊れた。

バスケットコート Yes 7 / No 0 チューブが壊れた。

ポンプの中のガスケット (圧力器) が壊れた。

3. Did you repair the water system after FIWC left BRGY?

(FIWC が村を離れた後にウォーターシステムの修理をしましたか?)

教会 Yes 5 / No 1 ガスケットを購入し、交換を行った。

チューブの補強を行った。

サリサリ Yes 6 / No 1 ガスケットを購入し、交換を行った。

バスケットコート Yes 7 / No 0 ガスケットを購入し、交換を行った。

チューブの補強を行った。

[2] 滞在について

1. Did you enjoy our stay? Yes 21 / No 0

(日本人の滞在を楽しんでもらえましたか?)

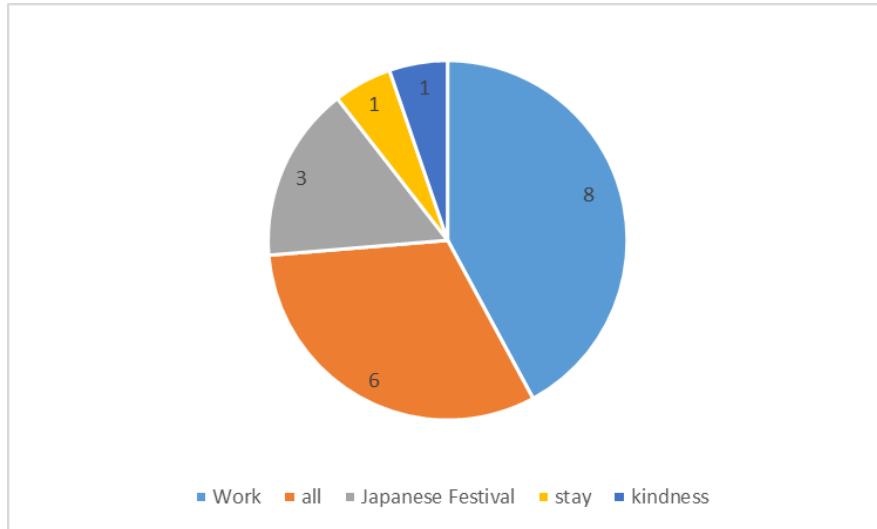
2. Is there any FIWC members' behavior annoyed you? Yes 1 / No 20

(私達 FIWC の行動で困ったことはありますか?)

・日本人の帰国がさみしくて困った。

3. What did you enjoy the best?

(何が一番楽しかったですか?)



4. Was it hard to cook for us?

(私達のためにご飯を作るのは大変でしたか?) Yes 0 / No 2

○マニゴン

〈ワーク詳細〉

水源のタンクを綺麗にして蓋をし、井戸付近にポンプを設置した。また、水源から離れた人口が多い集落にパイプを引き、オープンタブとポンプを設置した。

[1] ワークについて

1. Do you use the water system?

(ウォーターシステムを使っていますか?)

Yes 6 / No 0

2. Did any inconvenient happened because of the water system?

(ウォーターシステムに関して何か困ったことが起こりましたか?)

Yes 5 / No 1

水源が遠い。ポンプが固い。

ポンプの中のガスケット (圧力器) が壊れた。

3. Did you repair the water system after FIWC left BRGY?

(FIWC が村を離れた後にウォーターシステムの修理をしましたか?)

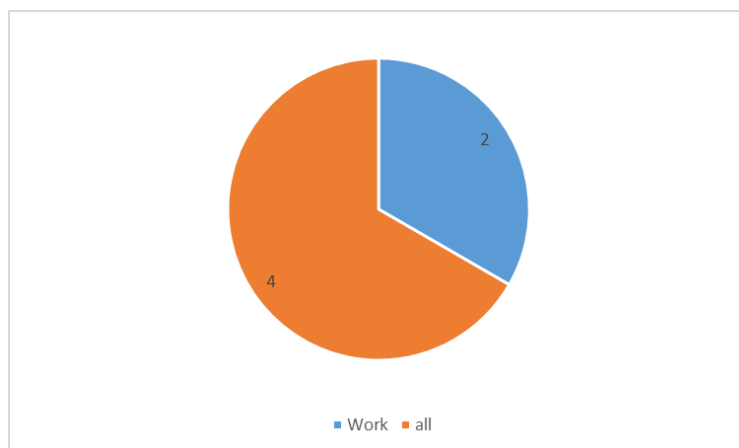
Yes 5 / No 1

ホースを付け足して家の近くに水を引けるようにした。

※ガスケットの故障については新しいガスケットを FIWC に購入してほしいとの話があったが、他のワーク地では村人が修理をしていたため、公平さを考え村人自身に修理してもらうようお願いした。

[2] 滞在について

1. Did you enjoy our stay? Yes 6 / No 0
(日本人の滞在を楽しんでもらえましたか?)
2. Is there any FIWC members' behavior annoyed you? Yes 0 / No 6
(私達 FIWC の行動で困ったことはありますか?)
3. What did you enjoy the best? (何が一番楽しかったですか?)



○ベリソン

〈ワーク詳細〉

水源から集落までパイプを引き、集落にメインタンクを設置した。

[1] ワークについて

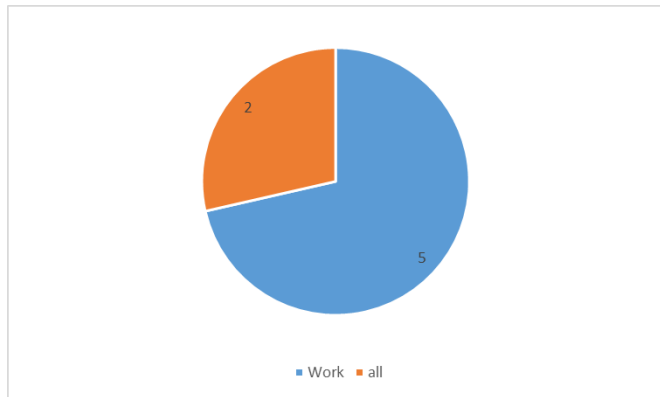
1. Do you use the water system? Yes 7 / No 0
(ウォーターシステムを使っていますか?)
2. Did any inconvenient happened because of the water system? Yes 2 / No 5
(ウォーターシステムに関して何か困ったことが起こりましたか?)
パイプが詰まり、水が出なくなった。
3. Did you repair the water system after FIWC left BRGY? Yes 3 / No 4
(FIWC が村を離れた後にウォーターシステムの修理をしましたか?)
パイプなどの清掃を行った。

[2] 滞在について

1. Did you enjoy our stay? Yes 7 / No 0
(日本人の滞在を楽しんでもらえましたか?)
2. Is there any FIWC members' behavior annoyed you? Yes 0 / No 7
(私達 FIWC の行動で困ったことはありますか?)

3. What did you enjoy the best?

(何が一番楽しかったですか?)



4. Was it hard to cook for us?

(私達のためにご飯を作るのは大変でしたか?) Yes 0 / No 1

○パラナス

〈ワーク詳細〉

集落の対岸では、水源に蓋をすると同時に、水源からポンプまでのホースを太くし、ポンプを2つ設置した。また、集落側では井戸の上部をセメントで閉じ、上にポンプを設置した。

[1] ワークについて

1. Do you use the water system?

(ウォーターシステムを使っていますか?)

Yes 11 / No 0

2. Did any inconvenient happened because of the water system?

(ウォーターシステムに関して何か困ったことが起こりましたか?)

Yes 4 / No 7

特に雨の後など川の水位が上がった後は、水が塩分を多く含み飲むことが出来ない。

3. Did you repair the water system after FIWC left BRGY?

(FIWC が村を離れた後にウォーターシステムの修理をしましたか?)

Yes 1 / No 10

ガスケットを交換した。

※集落側の水源については、赤アリが大量発生していた。水を使うだけで、掃除をしない人が多いとのことだった。しかし、ロクロクさんいわく、赤アリが直接水質に影響を及ぼすことはないとのことであった。

[2] 滞在について

1. Did you enjoy our stay?

Yes 11 / No 0

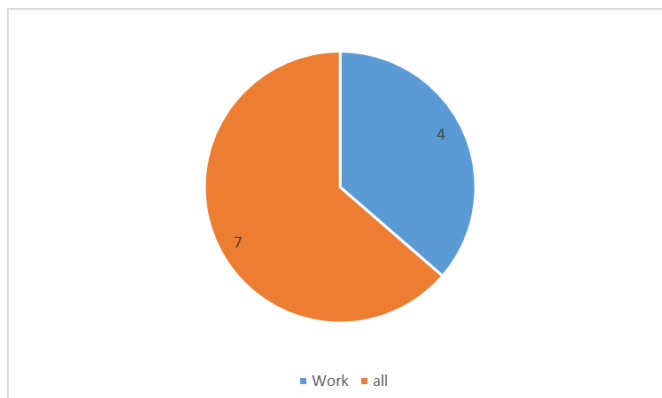
(日本人の滞在を楽しんでもらえましたか?)

2. Is there any FIWC members' behavior annoyed you?

Yes 0 / No 11

(私達 FIWC の行動で困ったことはありますか?)

3. What did you enjoy the best?
(何が一番楽しかったですか?)



4. Was it hard to cook for us?
(私達のためにご飯を作るのは大変でしたか?) Yes 0 / No 1

○ターウェル
〈ワーク詳細〉

水源に蓋をして集落までパイプを引き、ポンプとオープンタブを設置した。

[1] ワークについて

1. Do you use the water system?
(ウォーターシステムを使っていますか?) Yes 2 / No 0
2. Did any inconvenient happened because of the water system?
(ウォーターシステムに関して何か困ったことが起こりましたか?)
Yes 1 / No 1 ガasketが壊れた。
3. Did you repair the water system after FIWC left BRGY?
(FIWC が村を離れた後にウォーターシステムの修理をしましたか?)
Yes 1 / No 1 ガasketの交換を行った。

※水源を見に行こうとしたが、集落まで水を引いたため、今はだれも水源には行かず道が草でなくなったとのことであった。

[2] 滞在について

1. Did you enjoy our stay? Yes 2 / No 0
(日本人の滞在を楽しんでもらえましたか?)
2. Is there any FIWC members' behavior annoyed you? Yes 0 / No 2
(私達 FIWC の行動で困ったことはありますか?)
3. What did you enjoy the best? all 2
(何が一番楽しかったですか?)

～総括～

それぞれのワーク地において、多少の故障はあったもののすぐに村人によって修理されているところが多く、私たちがワークを行った後のメンテナンスもしっかりとされている印象を受けた。また我々のワークに追加で手を加え、家の近くに水を引くなど自ら生活の向上を図り、動いている姿を見ることができ、私たちの活動が村人の行動の起爆剤になっていると実感した。

日本人の滞在においては、多少なりとも迷惑をかけたはずであるにも関わらず多くの方が「楽しかった。戻ってきてくれて嬉しい。」と回答してくださった。また、私たちの行動に困ったと回答した村人に理由を聞くと、「日本人がいなくなってさみしくて困った。」との返答をいただき、大変うれしく思った。



9. Future Meeting

今年度から新たにフィリピンキャンプに取り入れる重要な要素

それが “Future Meeting”

<概要>

毎日のワーク終了後に、バヤニハン（ワークに協力してくれる村人）と日本人キャンパー同士でワークについて、話し合いを行い、ワーク完成に向けて相互の意見や思いを共有するとともに、村全体の将来、村人一人一人の将来について語り合う中で、村人のイニシアティブを引き出すことや村全体の活性化を図る。



<目的>

- ① ワークをともに行うバヤニハンとの交流の機会を増やすことで、バヤニハンの正直な声、要望を聞き出し、ワークの進行の促進を図ること。
- ② 日本人キャンパーによるキャンプやワークへの思いを村人に知ってもらうことで、フィリピンキャンプのビジョンを共有すること。
- ③ 村人の村の将来に対する考え、思いを聞き出すことで村人の主体性を引き出し、村全体の活性化を促すこと。
- ④ 村人との交流の機会を増やすことで、日本人キャンパーと村人との自発的な交流の発生を図ること。

<具体的な形式>

- ・ワーク日（月～金）のワーク終了後の午後4時～5時の間の約45分を使って行う。
- ・プロパーのバランガイホールにて行うため、日ごとにCitio（集落）を基準にバヤニハンに分け、日替わりで異なるCitioのバヤニハンと行う。
- ・スナックなどの準備は基本的にしない予定だが状況を見ながら、日本人キャンパーたちで用意するか、村人たちの差し入れ、持ち寄りの形で準備をすることになるかもしれない。
- ・ロクロクさんや英語のできる村人に言語面での仲介をしてもらい、MTGの半分の時間を全体で一人の発言に耳を傾ける形での議論、残り半分の時間は自由に交流をする時間とする。

10. 生活状況

衣

基本的に半袖半ズボンにビーチサンダルで過ごす。フィリピンは雨季と乾季があるが1年中暑く、最高気温が30℃を超えるような日がほとんどである。熱中症にならないように帽子をかぶったり、日焼け対策にアームカバー、レギンスなどがあるとよい。山道に入るときは長ズボンとクロックス、マリンシューズなどの足全体を覆えるものでないと草まけやケガの原因になるので注意。朝夜は冷え込むこともあるので長袖長ズボンがあるとよい。ほとんどの衣類は現地で安く購入できる。



食



フィリピン料理は鶏肉、豚肉、野菜、魚介類などを醤油や塩、味の素などで味付けしたものが中心で、比較的日本人の味覚に合うものが多い。主食は米であり、大きなお皿に盛りつけられたおかずを自分が食べる分だけ取るという形式である。日本人はスプーンとフォークを使って食べる。お祝い事やめでたいときがあるときは豚の丸焼きやヤギがでる。また、バナナやココナッツなどの亜熱帯のフルーツも豊富であり、たくさん食べることができた。飲み物は水、コーラやSpriteなどの炭酸飲料、コーヒーなどを飲んでいて、中には味噌汁の素を日本から持ってきて飲んでいるキャンパーもいた。生水を飲むとおなかを壊す可能性があるがあるので、必ずミネラルウォーターを買って飲むようにしていた。



住

BRGY ホールという村の公民館のような建物の隣にあるヘルスセンターという場所にキャンプ期間中は寝泊りさせてもらった。寝るときはゴザを敷いて床に寝る。ヘルスセンターが村の定期健診などで使われているときは、村長の家の一室を借りて過ごしていた。



風呂（リーゴ）

現地では水浴びのことを「リーゴ」と呼び、これが日本でいう風呂にあたる。日本のように湯船につかるお風呂はフィリピンにはないので、バケツやたらいに水を溜めて手桶ですくって水浴びをする。ほとんどの家ではリーゴをトイレの中で行うが、服を着たままなら外で行うことができる。今回のキャンプでは村の水道が何回か止まる時があり、そのときは汗ふきシートなどで身体を拭き、水が出始めたときにリーゴを行っていた。



洗濯

現地という言葉で「ラバ」という。洗濯機がないので洗濯はすべて手洗いで行っていた。たらいに水を溜めて粉末洗剤で汚れを落とす。日本人は手洗いに慣れていないため、時間がかかるのに加え汚れが落ちにくい。今回のキャンプではラバの時間短縮、また、survey をキャンパー全員で行えるために、なども踏まえて朝早くに起きてキャンパー全員でラバを行った。



トイレ



フィリピンのトイレは便座がなく、低くて小さい洋式便所が主流である。流すときはポリバケツに溜めている水を手桶ですくって流す。しかし、今回寝泊りしたヘルスセンターには便座があるレバー式の水洗トイレがあった。トイレットペーパーを流すと詰まる恐れがあるので、紙はエチケット袋に入れてゴミ箱に捨てていた。

買い物

ブタソンからハバル（バイク）に40分乗って、タバngo市のマーケットに行く。食料品、衣類、薬など生活に必要なものはほぼそこで調達することができる。ミネラルウォーターもここで買うことができる。また、村の中には「サリサリ」と呼ばれる小さな個人商店があり、お菓子やお酒などのちょっとした買い物をすることができた。ブタソンが山の中の村であり、村人もしょっちゅうマーケットに行くことが関係してサリサリが生活を支えているのかサリサリの規模が他の村に比べると少し大きかった。また、ブタソンから車で3時間ほどのオルモックという港町では、買い物や、日本円からペソなどへの換金もできた。



11. 係報告

○KP (Kitchen Police)

〈主な仕事〉 皿洗いのシフト表作成、生活用品・ミネラルウォーターの管理

1. シフト表の作成

出発前に皿洗い2人になるように平等にシフトを作成した。

(洗濯については毎日全員で行ったため、シフト表は使わなかった。)

〈反省点〉

・体調のすぐれない人の分は他のキャンパーが率先して交代してくれたのでシフト表の大幅変更なく終わることができた。

・トイレ掃除がされず、床にほこりや髪の毛がたまっていた。
→トイレ掃除をみんなで分担して行うべきだった。



2. 生活用品、ミネラルウォーターの管理

購入した生活用品の管理を行った。(洗濯、皿洗いの洗剤など)
キャンプで使用したたらいや手桶、ハンガーなどは村長の家やナナイフロー(村役員で親切なおばさん)の家で保管してもらっている。

〈反省点〉

・皿洗いの洗剤がキャンプ途中で切れてしまい、洗剤を利用して皿を洗えないときがあった。→本キャンでは今回よりも多くの皿を洗わないといけないため、今回の反省を踏まえて多めに購入することにする。



○保健

・キャンパーの健康状態

今回はキャンプ中に病院行きになるメンバーはいなかったが、キャンプ後半ではほぼ全てのメンバーが体調を崩し、帰国後に病院にかかるメンバーもいた。39度程の熱が出たメンバーも2人おり、帰国後に1人はインフルエンザと判明した。それ以外では小さなかすり傷や蚊にさされた程度で問題はなかった。

・保険バックの中身について

今回まで携帯していた薬の多くが10～12月の間で期限切れとなるものばかりであり、次回のキャンプ前までに必要な薬を取りそろえなければいけない。ただ期限切れの薬はほとんどが少量しか使われていなかったため、今回薬を揃える際は本当に必要な物のみを購入したい。

〈下見キャンプ後中身〉

保健バッグ（小）

| | | |
|-------|-------|-------------|
| 爪切り | 虫よけ | イブ |
| 日焼け止め | ガーゼ | カットバン（中） 4枚 |
| ムヒ | バンテリン | カットバン（小） 適量 |

保健バッグ（大）

| | | | | | |
|----------|---|---------|---|--------|---|
| レスキューシート | 5 | ムヒ | 2 | マスク | 2 |
| ザ・ガード（袋） | 4 | 爪切り | 2 | ポカリ | 1 |
| ザ・ガード（瓶） | 1 | ピンセット | 2 | ビューラック | |
| ヘパリーゼ | | 絆創膏 | | 赤玉腹薬 | |
| アルクイック | | テープ | | ビオスリーH | 7 |
| 虫よけ | 2 | ロキソニン | | 正露丸（瓶） | 1 |
| 体温計 | | フィリピンの薬 | | タミフル | |

※ 期限切れとなる薬

- ・ザ・ガード（袋）
- ・ザ・ガード（瓶）
- ・赤玉腹薬
- ・ビオスリーH

※ 残り少量だから補充するした方が良い

- ・消毒液
- ・マスク
- ・ポカリ

・反省

まず消毒液を入れ忘れていたので、個人の消毒液を借りて間に合わせていた。保健バックの引継ぎの際に中身のリストのものが実際にバックの中に入っているかを確認したが、全て一致していることだけしか確認をせず足りていないものがないかを確認しないという自分の不注意で、消毒液が必要にも関わらずバック内に入っていないことを見落とししてしまった。改善策として次回の係引継ぎの際に次の保健係に足りていないものをしっかりと伝えて引継ぎをする。

またもう1つの反省としてキャンプ後半で多くのメンバーが体調を崩してしまったことを挙げたい。これはもしかするとメンバー間で病気を感染させた疑いがあった。そのように考える理由として最初に体調を崩したメンバーに対してある程度の隔離や対処はしたが、徹底をせずどこか甘く見ていたため、解熱後すぐに対応をやめてしまったことがある。村人の間でも病気が流行っていたので、本当にこれが原因でメンバー間に感染が広がったとは言い切ることはできないが、その可能性は充分にあると感じた。また村人の間でも病気が流行っていたので健康なメンバーにも感染予防のためにマスクを着けさせるなどの対処をしていればここまで体調を崩すメンバーはいなかったかもしれない。このことから次は些細な体調不良でも見逃さずしっかりと対処をする、また村で病気が流行っているならば予防対策をとるようにしなければいけないと思った。。

○イベント

〈主な仕事〉 イベントの企画、準備、司会進行

○Japanese Festival [9/24(土) 13:00～]

今回の下見キャンプでは、来年度のキャンプのワーク地であるプロパー地区でイベントを行った。

【タイムスケジュール】

13:30～ 日本語教室

「おはよう」などの簡単な挨拶のフレーズや、「おなかすいた」などの日常生活で使いそうな言葉を中心に 20 語ほど教えた。前回同様、鉛筆とルーズリーフを配って実際に書いて日本語を覚えてもらった。前回のイベントで教えた言葉であったことと普段から子供たちと遊んでいるときに教えていたこともあって、挨拶などはすでに覚えている子供が多かった。



14:00～ サックレース

小学校にあったサックを借りてサックレースを行った。現地の子供たちもルールがわかっているためゲームは始めやすかったが、最初のチーム分けが言葉が通じないため時間がかかってしまった。前キャンプのように英語を話せる高校生に通訳をしてもらった方が良かったと思った。



14:30～ 親子丼試食

前回のキャンプで評判の良かった親子丼を今回のイベントでも配った。調理もそれほど難しくなく、子供たちを待たせることなく配ることができ、今回も「おいしい」といってたくさん食べてもらえた。2回連続で親子丼を振る舞っているのだから次のキャンプでは別の料理に挑戦できたら良いと思う。



15:30～ ダンス・歌

日本で流行している「PERFECT HUMAN」を踊った。子供が踊りやすいと思ってこの曲を選曲したが、踊ってくれる子供は少なかった。キャンパーが踊るだけでなく子供たちにダンスを積極的に教えに行けたら良かった。

歌は、前キャンプ同様、スピッツの「チェリー」、サザンオールスターズの「いとしのエリー」を歌った。覚えてくれていた子供が多く、2曲ともみんなで歌うことができた。

【全体の反省】

Survey が忙しく、準備が進むのが遅くなってしまったため出発前にできる準備は終わらせていく方が良いと思った。また、土曜日は宗教上教会に行かなければいけない人もいるため、そのことも考慮しながら日程を決めるべきだと思った。今回は呼びかけが遅かったため、子供たちばかりだったが、本キャンプでは早いうちから呼びかけを行い大人にも参加してもらい、もっと大規模なイベントをつくりたい。



○会計

〈主な仕事〉 金銭の徴収・管理、換金、毎日の収支記録

料金の目安

【ホテル】

Wi-Fi 付、ダブルベッド 日本でネット予約した。1,250 円/人

【交通費】

○スーパーキャット セブ→オルモック、オルモック→セブ

○バン 空港→ホテル 1,000P/台

ホテル→港 1,000P/台

港→SM 545P

SM→空港 1,000P/台

○ハバル ブタソン I ⇄ タバンゴ市マーケット 300P/台 (ハバル代 200P ガソリン代 100P)

ブタソン I → ヒバコガン 30P/人

○ボート ブタソン I プロパー ⇄ パガパガン、ベリソン 240P

○トラック オルモック→ブタソン I 3,000P/台

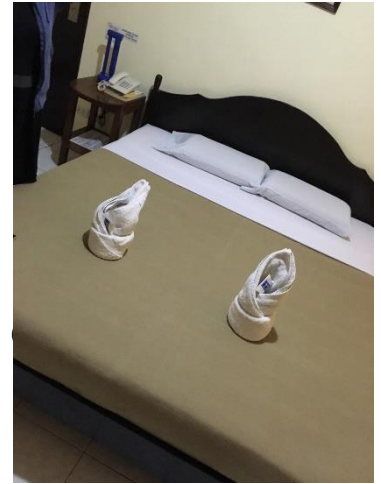
ブタソン I → タバンゴ市 2,000P/台

【その他】

○空港税 750P/人 個人費から各自出した。

換金 オルモック 4,400P/1 万

セブ 4,300P/1 万



個人の旅費の目安(新キャンパー)

| | |
|---------------------|----------|
| 飛行機(事前徴収) | 36,250 円 |
| ホテル(事前徴収) | 1,250 円 |
| 保険料(各自申し込み) | 5,000 円 |
| 生活費(事前徴収、換金後会計係が管理) | 15,000 円 |
| 個人費(事前徴収、換金後各自に返す) | 10,000 円 |
| 合計 | 67,500 円 |

☆予防接種について

左記金額に加え、予防接種代がかかる。

フィリピン、特にワークキャンプをするような山村に行く場合 A 型肝炎、B 型肝炎、破傷風、狂犬病などの予防接種をすることが推奨されている。1 度打つと 5 年ほど効果があるものもあり、病院によって受け付けている種類や値段に差があるので、各自調べ、必要に応じて接種する。

収入

| | |
|-----------------|---------|
| 繰越金 | 7,348P |
| 生活費(キャンパー) | 39,500P |
| 生活費(visit の先輩方) | 1,500P |
| 合計 | 48,348P |



支出

| | | |
|------|-------------|---------|
| 食費 | 食材費 | 9,369P |
| | 水 | 485P |
| 携帯 | ロード | 410P |
| | Sim カード | 20P |
| 交通費 | スーパーキャット | 8,280P |
| | 入港費 | 300P |
| | トラック | 8,000P |
| | ハバル | 4,068P |
| | バン | 3,545P |
| | ボート(ガソリン代) | 240P |
| | その他 | 1,300P |
| 生活用品 | 洗剤類 | 139P |
| 感謝費 | チップ | 400P |
| | ドライバーへの感謝費 | 750P |
| | ロクロクさんへの感謝費 | 9,600P |
| その他 | 荷物預け代 | 400P |
| | 駐車場代 | 10P |
| | ポストカード | 210P |
| 合計 | | 47,526P |



全体の収支 48,348P-47,526P=822P

反省

- ・計算が合わなくなることがあった。→メモの徹底。おつりをもらった時はきちんと確認する。
- ・チップの相場がわからず、多く渡しすぎた。→事前に相場を調べる。
- ・お金が足りなくなりそうになった。→途中からタノッド用のコーヒー代という予想外の出費があったとはいえ、最初から出費を抑えられるところでもう少し抑えていくべきだった。
- ・1000ペソ札もマーケットでうまく利用し、小銭が足りなくなることはなかった。



13. 他己紹介

【りょう】



そうか。諒について知りたいのだな。。いいだろう。俺たちのリーダー諒は子どもたちと遊ぶのが大好きで積極的にコミュニケーションをとっているのが強い印象に残っている。ミーティングでは個性あふれるキャンパーをキチッとまとめ、見事にリーダーシップを発揮していたよ。また、ミーティングが終わった後にロクロクさんと二人で話し合いに打ち込んでいたことも忘れてはならない。過ごしやすいキャンプを送るためにいつも現地の人々、ロクロクさん、キャンパーのことを気にかけてくれていた。来年の本キャンでも彼の活躍に期待だよ。諒。天国で元気にやってるかなあ。

from かずま

【しょーま】

上下赤のジャニーズ Jr。クヤテンテンの家から帰ってきたと思ったら昼からホボック。CR で叫びながら全身ずぶぬれ。ポンプで組んだ水を飲んじゃう。どうすればかいせいよりモテるか熟考。ぜーんぶしょーまのことです。これだけじゃないですよ？Survey では気になるものを見つけたら自らどんどん見に行く。MTG 中大事なポイントに気づいてずばずば質問し、納得いくまで考える。私にとってその姿はまさに憧れの先輩です。こんなしょーまがワークリーダーなんだから、こわいもんは何もない!!!!本キャンプでもよろしくです。

from はるか



【あまね】



このけん玉の技をキメてドヤ顔ってる彼女がワークリーダーのあまねです。常にキャンプ、ワーク、そしてメンバーのことを考えてくれるあまねに感謝いっぱい。なのですが、「りょう、一発ギャグしてー」とか「エントリーNo.2、かずまさん、面白いことお願いします」とか突然無茶ぶりしてきます。触るな危険。本キャンに来られる方は取り扱いに本当にご注意ください。

from かいせい

【かいせい】

大学入ってからの俺の親友。そしてフィリピンで誰よりもモテるイヤ〜なやつ。なので嫌味も込めながら海晴を紹介します。では、いきなりですが、なぜ海晴がモテるのか諸説見ていきましょう。まずは、「イケメンなんだからモテるのはもともとからに決まってるでしょ説」、次に「フィリピンマジックによる奇跡



のモテ期説」、そして「きらりと輝く清き汗の効能せts、、、失礼、訂正します、正しくは「洪水による大災害説!」、はい、このようにして諸説見ていくと非常に興味深い説がたくさんありますね。ですが現在の齊藤裁の判例・通説として最も有力な説は「女体化していく体の副作用説」という説が一般で、何より一番気味の悪い説であります。とにもかくにも学者達の学説は散らかり倒しているようです。(かいせいへ、さんざんに書いてしまい大変すいませんでした、全部うそです、許してください)

、、、っと上記の説までで、海晴のモテる理由、イケてるメンズ感は伝わったはずですが(そうじゃない人はいますぐ上の写真を拝めること) かいせいのモテる理由はこれだけではありません、実は、内面もめっちゃイイ男です。おそらくキャンパー内1位の優男です。かいせいには他人への思いやりが人一倍あります。だからこそ俺は海晴を誰よりも信頼して、親友と思っています。本キャンも一緒にがんばるぞ!

from 正真

【かずま】

メンバー1の盛り上げ役、いつでも笑顔を絶やすことなく、饒舌なトークで場を沸かしてく、フィリピンきてすぐ睡眠、時折見せるサイコパスな一面、中盤から悩まされ続ける口内炎、運動さぼりがちかいせいに厳しめ、倦怠期のようなカピタンの娘、それに構わず幼児をウヤブに決め、一緒に食ったね、チキンヘッド、そんなかずまはこのキャンプに欠かせねえ。 from りょう



【はるか】



唯一の新キャンパーはるか! きっと不安なことも悩み事もたくさんあったと思います。それでもいつも笑顔でフレンドリーで英語ペラペラなはるかは、本当にきらきらしていてまぶしかったよ! 本キャンでは新キャンパーを引っ張っていく存在になると確信しています! ずっと言ってるけど新キャンパーはるかでよかった!!

from あまね

13. 感想

【りょう】

今回の下見キャンプは私にとっていろいろな意味で挑戦ばかりだった。フィリピン自体は二回目だが、前は前リーダーたちに連れてってもらっただけで、移動手段、言語面、サーベいの仕方などあらゆる面で知らないことだらけだった。それでも、もう一度フィリピンに行きたい、フィリキャンにもっと深く関わりたいと思い、下見キャンプから参加することを決意し、リーダーという役職までさせてもらうことになった。だから、誰よりもフィリキャンのことを知ってなきゃいけないし、フィリピン人と積極的に交流しなきゃいけない、みんなを引っ張っていかなきゃいけないという独りよがりな思いでいっぱいになった。でも本当はキャンパーはみんな対等で、一人で背負うことはないし、役割分担をすればいいのであった。そこになかなか気づけず、下見キャンパーのみんなには迷惑をかけてしまった。日本にいる間に、過去のキャンプ資料を読んだり、ワークキャンプについてのワークショップをやったり、できる限り準備をしていったつもりではあった。しかし、実際のサーベいはそんなに甘くなかった。

現地に着き、実際にサーベイを行うことになった。いくつかの村を訪ね、さらに小さな集落へも足を運び、民家一軒一軒回って調査を行った。知らない日本人が突然訪れて、急にインタビューをさせてくれなんて迷惑なはずなのに、村人たちはみんな快く応じてくれ、さらには見ず知らずの私たちをもてなそうとしてくれる。フィリピン人がおもてなしの心を大切にしていて、親切だということは前回も身に染みて感じていたが、それは私たちがインフラ整備をしに来て、何かしてもらうからお返しという感覚があるのではないかなとも少し思っていたが、そんな考えは一瞬にして消えた。多くの問題を抱える貧困の村を訪れているのだから、本当は人をもてなす余裕なんてないはずだった。それでも笑顔でもてなしてくれる村人たちに私は *Salamat* (ありがとう) しか言えなかった。サーベイ中に少しでも親しみをもってもらおうと思って必死になって質問に使うビサヤ語を覚えたりもした。そしたら村人は私の拙いビサヤ語を聞いて笑う。笑って質問に応じてくれる。一日にたくさんの民家を回るから体力的にもきつけれど、その笑顔で頑張ろうって思わされる。質問の最後に、私たちは他の村も回っていて、どの村でワークをすることになるかはわからない、今回は支援できないかもしれないという説明をしなきゃいけないくて、それでも村人は笑顔で *Okra!* (大丈夫) って言うからこっちは心苦しくなる。私たちからしたら、学生生活の中で参加している一つのワークキャンプかもしれないけれど、村人は生活、さらには命まで関わってくる問題なのに。日に日に責任感は増してきた。そして全部の村を回って、ワークの候補を挙げて、いざ決断の時に、本当に悩まされた。村人って総称しているけど、もちろん一人一人名前があって、いろんな家族形態で、いろんな性格で、サーベイ中のことを思い出して、苦しくなった。キャンパーそれぞれ悩みながら、毎晩話し合っ、時には対立して、自分の考えが流されていないか、ワークのインパクトに影響を受けすぎてないかとかいろいろ心配し



て、そして出した答えが BUTASON I 村での橋の建設というプロジェクトだった。今回のワークは規模的にも予算的にもフィリキャン史上かなり大きいプロジェクトだ。大きいということはそれだけ成功も難しいということだ。でもこのプロジェクトを決定するにあたって不安な点は滞在中に極力なくせるように動いたし、ムニシパル（市）とも何度も話し合いをすることで調整を図った。

だから今回のプロジェクトは下見キャンパー、ロクロクさん、村人みんなの思いがいっぱい詰まったプロジェクトで、絶対に成功させるという気持ちでいる。今私がやるべきことはこのキャンプを私たち、そして村人と一緒に盛り上げて、完成を共に喜ぶ仲間を集めることだと思っている。

少しネガティブなことを書き過ぎたので今回個人的に気づけた楽しきを書き。前回個人的な反省としてもっと村人と交流したかったなというのが大きく心に残っていた。もともとコミュニケーションを取るのが得意じゃないし、村人に深くかかわっていけるキャンパーたちがうらやましかった。自分なりにせっかくフィリピン来たんだからとおもって関わってみてもうまくいかなかったりした。だから、今回こそは！リーダーなんだし！と思って積極的に村人に関わるようにした。まだまだだとは思いますが前回よりははるかにいろんな人と話せたし、深く交流できるようにもなった。おかげで交流しなきゃが交流したいに変わって、気づけばどこにいても村人を探すようになった。その中で、年齢層によって、話す内容も全然違うことに楽しさを覚えた。子供たちはひたすら一緒に遊ぶ、若い人たちは、勉強の話か、恋愛の話、流行りの音楽やテレビの話、中年層は私たちの団体について、目的、ワークの話、高年齢層は日本とフィリピンの比較の話、経済状況、街の様子、家庭状況、学問などどの年代とかかわってもそれぞれ違うテーマで話してくれるから楽しい。もっとフィリピンを知りたいし、もっと日本を知ってほしいと思った。今までのキャンパーはこうやって交流の楽しさを知ったのかなとか、もっと交流すればもっと楽しく感じるのかなと思った。

長くはなってしまいましたが以上のように感じた下見キャンプでした。また、最後にはありますが、フィリキャンの魅力をしっかり下の代に伝えてくださり、ここまでフィリキャンを確立させ、引き継いできてくださり、今もなおあたたかく現役を見守り、気にかけてくださる先輩キャンパー方、フィリキャンには欠かせない FI の大の理解者であるタイ（父）ロクロク、私たちのためにご飯や、寝る場所、生活のあらゆる面で支えてくださった村人たち、私たちが信頼し、理解してフィリキャンに参加させてくれた両親、フィリキャンに関わる全ての人に心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。本キャンプも全力で創りあげていくので応援宜しくお願い致します。

【しょうま】

今回の下見キャンプでは下見の経験者がおらず、皆が初めての survey でしっかりとやり遂げられるのか？初めはメンバー全員が不安に思っていたが、ロクロクさんの手助けを借りながら、何とか無事にやり遂げることができた。また自分にとっては初めての下見で、春の本キャンでは知らなかった村人の生活状況や知らなかった村人の一面を知ることができ、非常に面白く、また学びも多くあった。

今回、survey をする中でワーク候補としてウォーターシステムやフラッドコントロールのワークなどが挙げたが、最終的に自分たちは橋のワークを選んだ。しかし今回選んだこの橋建設のワークは FIWC 九州の歴史の中でも一番大規模であり、予算が大きい、また橋建設にフェイズ 1~3 の工程があるのだが、その内のフェイズ 1 を技術面、時間面の関係上からムニシパル(市)に委託しなければいけなかった。またムニシパルへの委託に関し

て、委託する部分の工事は 11 月から始まるため、これは FI がワーク開始から携われないこと、また FI がいない中でワークが勝手に進むことを意味しており、メンバー全員不安を感じていた。その理由としてフィリピン人は日本人とは違って呑気な気質の人が多く、過去のワークでもフィリピン人に頼んでいたことが実際には行われてお



らず、計画が遅れたこともあったため FI が知らないところで進む計画が怖かったからだ。また、ワークの初めから関わることができないことに関しても、「初めから関わりたい」と思うメンバーが多くいた。それでもここでのワークを選んだのは現在、橋建設予定地には簡易的な竹の橋がかかっているのみで、これでは作りが非常に簡単なため手すり部分などに大きな隙間があり、幅も狭く、そのために子供が川へ落ちたこともあるという大変危険な状態で、多くの村人が丈夫で安全な橋を求めているという現状であること、またこの橋は教会の隣に位置していると同時に集落と農耕地、集落と学校を繋ぐ橋として大きな役割を果たしており、橋の利用者が大変多く、バランガイ(村)の全シティオ(地域)の村人がこの橋の完成により恩恵を受けられるという大きなメリットがあるからで、メンバー全員一致の賛成でこの橋のワークを選んだ。そして先ほどの不安要素やデメリットを少しでも減らせるような対処を今回の下見キャンプで考えた。例えば FI がいない間のワークの進行具合は村長に FB で知らせてもらうようにし、さらに現場監督としてロクロクさんには作業の進度を見守ってもらうようにした。この橋のワークにかけるキャンパーと村人の思いがデメリットを少しでも小さくしたように感じる。

ここまで橋のワークについて述べたが、別で知ってほしいこととして、先程メンバー全員一致の賛成で橋のワークを選んだと述べたことに関し、“この答え”にキャンパー全員が

たどり着くまでに個人の段階でそれぞれの思いを抱き、それぞれに葛藤があったということだ。実際自分も今回選んだワーク地の他にもやりたかったワーク地、今回選んだワーク地よりも助けを必要としていると思ったワーク地はあった。しかし予算面や技術面、利益の幅等を考慮した結果、どうしてもその他の候補地は決定を見送らざるを得なかった。今回のキャンプで幾つかの村や集落で survey を行い、そこには自分達の助けを必要としている人々がいて、切に自分たちを求めているにも関わらず自分は彼らを助けることができない、彼らに手を差し伸べてあげることができないという現状に、どうしようもない歯痒さや悔しき感じ、そして何よりも自分自身の無力さを痛感した。できないということは頭では分かっているのだがそのできないということに完璧には納得できない、そんな思いも抱いた。そうやって皆が様々なことを考え、悩んだ末にキャンパー全員で選んだ次の春のワーク。今回のこの橋のワークはたとえどんな困難があってもメンバー全員で必ず乗り越えて、絶対に成功させたい。そして必ず最後に村人と笑いあってワークを完成させたい。また今回自分はワークリーダーの役職を与えて貰っているのだが、ワークリーダーの役割は何か、何をすべきかを常に見据え、ワークを成功へと導くため尽力したい。

最後に、春には多くの本キャンパーと共に、また BUTASON I を訪れることを楽しみにしています。Salamat!!!

【あまね】

私が下見キャンプに参加することを決めたのは、春のキャンプでの悔しきがあったからだ。昨年、私は下見キャンプには参加せず、春の本キャンプのみに参加した。本キャンプに参加した理由は、とにかく海外に行きたい、外の世界をみたいと思ったから。もちろんワークキャンプという活動に魅力を感じていたのも事実であるが、正直に言えば村人のために何かしたいとか、困っている人を助けたいとか、そんな理由よりも本当はただの好奇心の方が強かった。そして実際にキャンプに参加し、フィリピンで生活しながらワークを行っていたのだが、何かはずっと私の胸に引っかかっていた。海外に行って外の世界を見たいという私の願いは叶ったはずなのに、何かは引っかかる。何だろう。私はずっと考え込んでいた。そしてこの胸の突っかかりが悔しきであることに気付いた。キャンプに行く前、先輩たちにキャンプの話聞き、キャンプの醍醐味は村人と一緒に生活して、作業をして仲良くなって、ワーク成功の達成感を一緒に味わうことだと思っていたし、好奇心が強かったとはいえ、キャンプの醍醐味を味わうことを心から楽しみにしていた。しかし、実際には私達日本人に出来ることは少なく、言われた作業をこなせばウォーターシステムが出来ている。その状況にショックを受けた。特に、昨年は市を移動しての初めてのワークで手探りな部分も多く、ワーク地も複数であったため、私が日本で話を聞いていた先輩たちと同じようにいかないのは当たり前で仕方がないことだったのだが、それでもとにかくショックだった。このワークが何のためになるのか、本当にする意味があるのか不安になった。この不安を拭おうとワークのことを必死に理解しようとしても、下見キャンパーのように根底からワークを

理解することは出来なくて、時折下見キャンパーの口から発せられる「新キャンパーにはわからないかもしれないけど....」という本来であれば、なんてことのない普通の前置きを聞くたびに、下見キャンパーとの間に壁があるように感じた。そしてそれと同時に壁を越えることのできないことへの悔しさが募った。こんな思いはもうしたくない。そう思った。



こんなことばかり言っていると本キャンプからの参加を考えている子は不安になるよね。長々と述べてきたけど、私の初めてのキャンプには決して悔しさばかりだったわけではないよ。だって悔しさしかなかったら、また行こうなんて思わないもの。

こんなぐちゃぐちゃな気持ちで本キャンプに参加していたわけだが、結局私はキャンプに参加して良かったと実感することになる。私にそう思わせてくれたのは“笑顔”である。去年のワークではウォーターシステムをつくったのだが、いくつめかのワーク地でポンプが完成し、そこから水が出るのを見て、ロクロクさんが、そして村人が笑顔になったのを見たとき、あ、これでいいんだ、笑顔になれる それだけでいいんだと感じた。この笑顔を見るために私はここに来たんだと思った。この笑顔を見たいからまたフィリピンに来ようと思った。そして前に述べた悔しさも相まって本キャンだけではなく、下見から参加することにした。

このような経緯で下見キャンプに参加したのだが、私には下見・本キャンを通しての目標がある。その目標とは、私のような悔しい思いをする新キャンパーを出さないこと。この目標を達成するためにワークリーダーになった。本キャン中、私は下見キャンパーとの間に壁を感じていたが、本気で壊しに行けばあの壁は壊せたのかもしれないと今では思う。でもあの時の私にそのことに気付けというのは難しい話だ。私のような思いをする人を出さないためにはどうすればいいのか、考えた。そしてたどり着いた答えは、下見キャンパー側から壁を壊しに行けばいいというものだった。

今回下見に行ってみて、本当に私は知らないことだらけだったと痛感した。どうやってワークが決まるのか、ワークが出来るということがどれだけありがたいことなのか、全くわかっていなかったと反省した。下見キャンプは全てが手探りで、正解がわからなくて不安ばかりだった。同じ市でやると決めていてもこんなに手探りなのに前下見キャンパーは市を変えるという大きな決断をした。そのすごさと同時に、本キャンで何もかも手探りで不安だったのは新キャンパーだけではなかったと気づいた。初めてのキャンパーを引っ張っていくという立場でのキャンプ。そして新しい市でのキャンプ。下見キャンパーもきつと手探りで

不安だったんだろうなと今になって思う。

前キャンパーが新しい市での礎を築いてくださったおかげで、私たちは今回のワーク候補地を広い視野で探すことが出来た。たくさんの候補地の中で私達が選んだのは“橋”。たくさん候補地がある中で、なぜかこのワークだけ本キャンで新キャンパー含め、私達日本人キャンパーとロクロクさん、そして村人が笑顔でワークを成功させてる絵が浮かんで、私は橋のワークがしたいと思った。みんなでワーク地を決めるまで、他のキャンパーがどのワークをしたいと思っているかわからなくて、私だけだったらどうしようって不安だった。でもみんな考えてることは一緒に、みんな笑顔でワークを決めることが出来た。このワークだったら、みんなで笑顔になれる。そう思った。そして幸いにも、今回はタバンゴ市での2回目のワーク。去年のメンバーがしっかりとワークを成功させてくれたおかげで、少しだけ余裕がある。だから私のように悔しい思いをするキャンパーも出さないという目標にも力を入れることが出来る。ワークを成功させてみんなで笑ってる絵を現実にするためなら、なんだって出来る。そう思える。本当に下見に参加して良かった。本キャンが楽しみで仕方ない。

【最後に下見メンバーのみんなへ。】

このメンバーで下見に行けて本当によかった。いっぱい辛いこともあったし、不安なこともあった。あたしがワークリーダーでいいのか、諒や正真を見ながら不安になったときもあった。でもね、もしこのメンバーの誰か一人でも欠けてたらって考えたらさ、見えなくなるんよ。ワークを成功させて笑ってる絵が。たぶんそれは私が欠けても一緒（って思いこんでる）。誰が欠けてもダメ。そう思えるのはみんなだからです。本当にありがとう。大好き！！

【かいせい】

2度目のフィリピンキャンプ。行くかどうか本当に悩んだ。インターン、旅行、バイト、、、やりたいことはたくさんある。でも、「下見から参加して自分たちでキャンプを作り上げてみたい」、「フィリピンが好き」。たった2つの思いが参加を決めた理由だった。

前回のキャンプと一緒にたくさんの先輩方から話を聞いて、楽しみな思いが増えていく一方で不安な気持ちもあった。でもやっぱりそんな気持ちを払拭してくれたのは村人たちだった。村に着くと、村人たち、大人も子供もみんな自分たちが村に来たことを本当に歓迎してくれた。名前を覚えていてくれた。「この村人たちの温かさが本当に好きで、またフィリピンに来たんだ」って改めて思うことができた。

でも、下見キャンプは本キャンプとは全く違うもので、本当に悩んだキャンプでもあった。集落を一軒一軒回って、「何か困っていることはあります



か？」と聞いていく。「水が出ない。」「子供たちが通学する橋が危ない。」「雨が降ったら川の水が氾濫する。」、、、村人それぞれがいろいろな問題を抱えていて、深刻な状態で、その問題すべてを解決したい。そう思いながら survey をしていた。でも、学生団体の私たちにできることは限られている。そのたくさん問題があるなかでどのワークが確実性がある、将来性がある、必要性がある、考えるのはつらかったし、悩んだ。悩んだ末に決めた橋のワーク。自分たちが一番お世話になっている集落でのワーク。解決すべき問題はたくさんあるし、その中でできるのはたったひとつのワークだけど、自分たちが決めたワーク。今まで自分たちが色々なものを与えられてきた、だから今度は自分たちが何か与えられたらいいなと思った。

そして、このワークに決めたからには絶対に成功させる。絶対に絶対に成功させる。この気持ちで、気合で本キャンプに挑んでいきたい。

キャンパーのみんな！たくさん悩んで、たくさんぶつかって、たくさん語って、たくさん歩いて、、、(笑) この3週間本当にいろんなことがあったけど、この6人でキャンプに行けてめっちゃ楽しかった。でも本番はこれから。最後みんなが笑顔で終われるようにがんばろーぜ！

最後に、この下見キャンプはたくさんの方々のおかげで無事に終わることができました。OB・OGの方々、国内係のさとり、、、みんなに感謝しています。本当にありがとうございました。

【かずま】

前回のキャンプで私はがけから転落した。右肩も脱臼し、履修も崩壊した。なので今回は、どんなケガにも対応できるよう大量のシップを用意して今回の下見キャンプに臨んだ。そんな私を今回襲ったのは過去最大級クラスの口内炎だった。それが単なるビタミンB2不足なのか、寝ている間に涼から強烈なエルボーをくらわされたのか、原因は不明ではあるがこの口内炎の激痛のせいで私は笑うことも話すこともできず、トラフル錠を持っていくべきだったと後悔する日々が続いた。もうこんな痛い思いはしないように来年の本キャンでは口内炎対策をしっかりとしていくという新たな課題ができたので良かったと思う。さて、下見キャンプについては来年の本キャン報告書で洗いきらい書こうと思っているので、今回はキャンプの中で特に印象に残った部分を挙げたい。来年の本キャンのワーク内容は報告書をご覧の通り、橋の建設に決まった。建設費の費用やワーク規模も今までにないくらい大きなワークになるだろう。だが、その中で最も大きな問題点があった。それが、橋の建設に対して前向きな考えを持っていなかったエリザベス家の存在である。私たちが建設を予定している橋の近くには、ナナイフロー家の



サリサリ（村の売店）がある。エリザベスの家にもサリサリがあるのだが、私たちが橋を建設することによってナナイフローのサリサリに行きやすい人々が増え、エリザベスのサリサリの売上げが下がることが懸念されたのだ。当然、エリザベスからしたら橋の建設に対して良い気持ちはしないだろう。自分は「日本人のおかげで生活がよりよくなった！」という風に言われるのを楽しみに行くのが目的の1つでもあるのに、それが「日本人のせいで」と思う人もいるんだと考えると、自分たちは無責任なことをしてしまったのではないかと考えるときもあった。だが、自分たちも何も考えず軽い気持ちで決断をしたわけではない。毎日ミーティングを行い、それぞれの思いを伝え、考えに考えた結果だ。決めた以上、妥協する気持ちにはキャンパーの中で全くなかったし、どうやったらキャンプが成功できるのかを残された期間で準備できるかがこれから大事になってくると感じた。また、エリザベスを説得してくれたのがロクロクさんだったのだが、ロクロクさんはエリザベスにこの橋の重要性、村人が橋を建設することを求めている、といったことを必死に伝えてくれた。そのロクロクさんの姿を見て、ワークを必ず成功させなければならないと強く感じたし、同時にロクロクさんへの感謝の気持ちが溢れ出た。今回の下見キャンプが成功だったかどうかは本キャンが終わってみないとわからないことだが、本キャンに向けてできる限りの準備をして本キャンに挑めばグッとワーク成功に近づけるはずだ。

今回のキャンプメンバーは、自分が途中からキャンプに参加することになった時に快く歓迎してくれた。みんなそれぞれ頭がおかしい部分もあったが、みんなといるとすごく落ちてきて自分の言いたいことを隠すことなく話すことができ、自分自身、彼らのおかげで大きく成長できたと実感できる部分もある。下見キャンパーのみんなにはとても、とても感謝しています。必ず本キャンを成功させようね。

【はるか】

初めてのFIWC、初めてのMTG、初めてのフィリピン、初めてのワークキャンプ、初めてのハバル、初めてのホボックカ〜ヨ…。笑 この下見キャンプの全てが、私にとっては「初めて」だった。

偶然が重なって FIWC のことを知った。スケジュールが全然合わなくて、新歓もキャンプ報告会も何もかも行けなかったが、ワークキャンプの活動内容を知った瞬間に参加することを決めた。せつなくなら下見から参加したいと思った。夢である開発コンサルタントに一步近づける、貴重な体験ができることにわくわくした。しかし、MTG が始まってからは苦悩の連続だった。ほかのサークルや部活とは明らかに違う FIWC の雰囲気圧倒される日々。ほかのキャンパーは春キャンプのメンバーであり、ひとり実感がつかめず、想像と空想だけが空回り。意見が言いたくても机上の空論のような気がして言葉がまとまらない。「はるかなら大丈夫!!」先輩方からそんな言葉をたくさんかけてもらった。それはきっとほめ言葉であり、励ましの言葉であり、応援の言葉であつたのだろうけれど、そんなことないと不安は募るばかりだった。報告書で今までのキャンパーの感想を読みあさった。「帰りたい」場所と皆が言うフィリピンとは。ワークキャンプとは。それにともなう責任とは。考えて考えて考えた挙句、良くも悪くも開き直った。できることはやったうえで、でも結局は行ってみなければわから

ない。行ってみよう。たくさん人の目を見ることを目標にし、新キャンパーだからこそ純粋に楽しんで、新キャンパーだからこそ感じられることを大切にしようと決めた。

いざ出発。セブで初めてフィリピンの雰囲気を感じて、一気にまたわくわくがこみあげた。オルモックに着いて初めてロクロクさんやカピタン、ナナイフローと会って、なんとなく安心したし、憧れの東南アジアのマーケットを見て興奮した。ブタソン I に着いたとき、子どもたちが学校からたくさん来てびっくりした。ほかのキャンパーがさっそく名前を呼ばれているのを見て、負けていけない、と「アコシはるか〜!!!!」をあほみたいに連呼した(笑)。わらわらと子供たちが集まっているのを少し遠くから見ていたら、ひとりの女の子がやってきて、ただ隣に座ってくれた。無口な子であった(と思っていたが、後日、プロフィール帳のようなものを書くときに「who is your crush?」の欄があり、私がしぶっていたらその子が見たこともないテンションで「I know, Japanese is honest!! Please!! Who is your crush?」と空を仰いで大声で叫ぶ姿を目撃することになる)が、受け入れてくれたのかなという感じがしてほっとした。日がたつにつれだんだんと名前を覚えてくれた人が増えていった。なるべく村人と一緒にいるようにして、毎日たくさん笑って、話して、同じ時を共有した。馬鹿笑いしたり、ふざけ合ったり、なんとなく、日本にいるときよりも自分が自分らしくいられる気がした。初めて「アテはるか!!!」と呼んでもらった時は本当に嬉しかった。ブタソン I のプロパーに帰るとすぐに両手が子どもたちにもっていかれるのが楽しくて仕方がなかった。ビサヤ語を少しずつ教えてもらい、普段「マオット!!グアッパ!!!」としか言わないちびっ子たちにヒソヒソ声でクラッシュを教えてもらって理解できた時は感動さえ覚えた。子どもたちと折り紙やあやとり、スーパーボールで遊んだ時間は今思い出してもにやついてしまうくらい大切な時間だ。

Survey や evaluation では、先輩方がこれまで築いてきたものの大きさを思い知った。Survey はやればやるほどたくさんフィリピン人に出会い、フィリピン人のいろんな面や様々な問題と向き合うことができた。まずブタソン I のプロパーを見て回って、皆が口をそろえて「橋」ということに驚いた。イラヤやブタソン II では、これまで他団体からの支援が行き届いてこなかったことが引っかけた。クータに行って、ワークで利益を平等に分配することの難しさを痛感した。ヒバコガンのプロパーの flood control は最後まで私の中で橋と拮抗したワーク候補だ。しかし、ヒバコガンへはカラヒからの支援の話が浮上し混乱した。何度もしつこいくらいにロクロクさんに質問をした。橋に決めていいのか、自分たち頭の中で、また MTG を通してみんなで、ひとつひとつ考えていった。押しつけの支援にはしたくない。とはいえ、私たちがやりたいと思えるワークをしたいという気持ちも正直もちろんある。でも、ここの人々が求める「当たり前」とは何なのか。ワークを完結させることができ、利益や将来につながるものが作れるのか。市からの協力は得られるのか。私たちが現場にいない状況で本当にワークは進むのか。私たちはそれをきちんと把握することはできるのか。政治的な不安はないのか。結局、私が橋に決めたのはやりたいという気持ちが何よりの理由だった。初めてその橋を渡った時、足がすくんだ。そんな橋を子どもたちが走って渡っていくのは怖くて見ていられなかった。おばあちゃんが一人で渡ることが難しく、女の子たちが補助をする場面も見た。橋をやりたい。市と村とキャンパーと協力して橋を作り上げてみせる。そんな思いがキャンパーひとりひとりの中でも大きくなって、そして一つになっていくのを感じていた。最後の意思表示、決定するその瞬間はみんな満

足感とやる気に溢れていたし、自分がその瞬間にいられたことを誇らしく思った。また、Evaluationでは、過去に作ったものが村人によって整備されながら使われ続けている光景を目の当たりにし、様々な効果を生んでいることを知って、ワークのすばらしさやおもしろさ、その責任を垣間見た。逆に、修理が行き届いておらず使われなくなったポンプがあり、ワークの難しさも同時に感じた。どれも、下見から参加したからこそ知ることができたことであり、下見に参加してよかったと心から思った。しかし、この下見キャンプに参加したことでキャンパーに、MTG や Survey に、あわよくばフィリピン人たちにも、何かしら少しでもプラスの影響を与えられたのか。自己満足だけに終わっていないか。やりたいことだけをただやって帰ろうとしてないか。そう考え始めたとき、自分の存在意義がわからなくなった。せっかく下見から参加したのに、そんな不安が最後になって生まれたことが悔しかった。本キャンプに向けて、宿題が残ってしまった。

下見キャンプを通して、出発前までに抱えていた目標は達成することができた。私にとってもフィリピンは「帰りたい」場所になった。なぜなら、私が私らしくいられる場所であり、何より、また会いたい人がたくさんいる場所であるからだ。たくさんの人と出会い、目を見て笑い合い、話をした。嬉しいことに私は再びフィリピンに帰る機会がある。またみんなに会える。たくさん笑いあって、話をして、そして今度は実際に私たちの手でワークができる。これからは本キャンプに向けた準備だ。下見キャンプの最後に見つかった課題は本キャンプで解決する。下見キャンプに参加したからこそ分かること、感じられたことをフルに利用して、全力でワークに挑みたい。下見キャンプの分も含めて、納得のいく本キャンプにしたい。新たなキャンパーとともに。

最後になりましたが。リーダーとして引っ張り、サポートしてくれたり。Survey や MTG で憧れる先輩の姿をたくさんみせてくれたしょーま。いつも気にかけてくれて、気づいてくれて、フォローしてくれたあまね。相談をたくさん聞いてくれたかいせい。右も左もわからない私にいろんなことを教えてくれたかずま。移動中、フィリピン人の国民性や自分の武勇伝などを語ってくれたり、この写真を撮るときに「日本に帰ったらタイって紹介しな」って言ってくれたりとお世話になったロクロクさん。心配ばかりかけたカピタン、タノッドたち。笑いあいまくって遊びまくった子どもたち。新キャンパーの私を気遣ってくれた先輩方。このキャンプを通して出会った書きつくせないほど多くの人々のおかげで無事帰ってくることができました。本当にありがとうございました。本キャンプも全力で挑みます。今後ともよろしくお願ひします!!!!そして、本キャンパー、フィリピン人たちとの新たな出会いを楽しみにしています!!



14. 新キャンパー募集について

2016年度フィリピンキャンプのキャンパー募集を行います！！

【キャンプ詳細】

・期間：2017年2～3月（約1カ月、
具体的な日程は後日決定）

・場所：フィリピン共和国レイテ島タ
バンゴ市 BUTASON I 村

・内容：橋の建設



・費用：約10万（交通費、生活費等込）＊レートにより多少の変更あり

・募集人数：14人程度（下見キャンパー6人と合わせて、20人程度でキャンプを行う）

・事前MTG：キャンプ出発までに計7回以上 Meeting を行う

【第一回 MTG】

11月30日（水）18：00～@びおと一ふ

（第一回以降の Meeting の日程は後日キャンパー内で調整し、決定する）

【キャンプ参加の条件】

① Meeting にきちんと参加できること

（フィリピンで生活していく上で大切なこと、キャンプに向けて詳細の決定、意見の共有を行うため、原則すべての Meeting への参加が必須）

② 保護者の同意

（海外での活動ということもあり、保護者の同意が必要。Meeting の際に同意書を配布するが、参加を申し込む前に保護者の同意を得ておくことが必要）

以上を踏まえた上で、参加希望の方は、

① 名前

② 年齢

③ 大学、学部、学年

④ 参加希望理由

を明記の上、下記アドレスまでご連絡ください。

ryophilippine@gmail.com (九州大学2年 渡邊諒)

*参加希望人数が定員を上回った場合は締め切り後に下見キャンパーで選考を行い、再度連絡いたします。先着順ということはありません。

★締め切り：11/23(水) 午後5時まで

【フィリキャン説明会】

第一回：11/1(火)18:00～

第二回：11/2(水)18:00～

第三回：11/16(水)18:00～

場所についての詳細はメールで改めて連絡します。上記の日程が都合が合わない場合は個人的にでも受け付けます。



やりたいこといっぱいあって悩んでるなら、とりあえずフィリピンキャンプに行こう。

君の大切にしたいもの、大好きな友達、たくさんの笑顔に出会える。

君の世界を広げて。一緒に素敵なキャンプを作り上げていこう。

君を待ってる。本キャンに参加してくれる 「君の名は。」





【フィリピン下見キャンプメンバー】

渡邊諒（九州大学2年）：リーダー

齊藤正真（九州大学2年）：ワークリーダー/保健

中村天音（九州大学2年）：ワークリーダー/記録

久保海晴（九州大学2年）：イベント

花田一馬（西南学院大学2年）：KP

三島はるか（九州大学1年）：会計

FIWC 九州（代表：平野佳奈）

Mail : fiwcq@hotmail.com

Web : <http://fiwckyushu.jimdo.com> (FIWC 九州公式 HP)

Twitter : @fiwckyushu



FIWC九州
k y u s h u